



2015年度 決算説明資料

2016年5月9日

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



2015年度決算の概要について説明します。

I. 2015年度決算実績

財務編	
・決算実績サマリー	3
・セグメント別内訳	4
・貸借対照表	5
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	6
セグメント情報編	
・受注高・受注残高	7
・売上高	8
・営業利益	9
・世界地域別売上高	10
経営分析編	
・事業規模の推移	13
・損益構造	14
・キャッシュ・フローの推移	15
・事業ポジション別経営の状況	16
・配当政策	19

II. 2016年度業績見通し

・業績見通しサマリー	21
・セグメント別内訳	22

III. 補足資料

補足資料	24-30
------	-------

I . 2015年度決算実績

2015年度決算実績 サマリー



(単位:億円)

	'13年度 (利益率)	'14年度 (利益率)	'15年度 (利益率)	増減 (増減率)	
受注高	34,200	46,991	44,855	△ 2,135	(△ 4.5%)
売上高	33,495	39,921	40,468	+546	(+ 1.4%)
営業利益	(6.2%) 2,061	(7.4%) 2,961	(7.6%) 3,095	+133	(+ 4.5%)
経常利益	(5.5%) 1,831	(6.9%) 2,747	(6.7%) 2,725	△ 22	(△ 0.8%)
特別損益	312	△ 420	△ 1,398	△ 977	—
親会社株主に帰属する 当期純利益 (※)	(4.8%) 1,604	(2.8%) 1,104	(1.6%) 638	△ 465	(△ 42.2%)
ROE	11.0%	6.5%	3.7%	△ 2.8pt	—
EBITDA	(10.4%) 3,468	(11.7%) 4,650	(11.9%) 4,796	+145	(+ 3.1%)

'15年度特別損益
(△1,398)の内訳

【特別利益】

・固定資産売却益 56 他

【特別損失】

・客船事業関連損失 △1,039
・事業構造改善費用 △472 他

(※)'13年度・'14年度は「当期純利益」

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

サマリーについて説明します。

受注高は、大型案件の期ずれ等により、前年度から2,135億円減少の44,855億円となりました。

売上高は、前年度から546億円増加の40,468億円となり、初めて40,000億円を超えて過去最高を更新しました。

営業利益は、前年度から133億円増加の3,095億円、営業利益率は7.6%となりました。これは、売上総利益の伸びが販管費の増加を上回ったことによるもので、当社の定常収益力が堅調に推移している結果と評価しています。

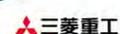
経常利益は、前年度から22億円減少の2,725億円となりました。

特別損益は、前年度から977億円悪化のマイナス1,398億円となりました。これは主に、現在建造中の客船に関連する1,039億円の損失計上によるものです。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、純利益)は、前年度を465億円下回る638億円となりました。

以上により、ROEは3.7%に留まりましたが、EBITDAは前年度から145億円増加と、本業の収益力は着実に改善しています。

2015年度決算実績 セグメント別内訳



(単位:億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'14年度	'15年度	増減	'14年度	'15年度	増減	'14年度	'15年度	増減
エネルギー・環境	19,236	20,050	+814	15,995	15,427	△ 567	1,626	1,546	△ 80
交通・輸送	9,992	6,071	△ 3,921	5,295	5,485	+189	234	545	+310
防衛・宇宙	4,174	4,477	+303	4,839	4,850	+11	285	257	△ 27
機械・設備システム ^(※)	13,447	13,925	+477	13,474	14,323	+848	877	800	△ 76
その他 ^(※)	1,507	1,628	+121	1,549	1,773	+223	103	126	+22
消去または共通	△ 1,367	△ 1,298	+68	△ 1,233	△ 1,392	△ 158	△ 166	△ 181	△ 15
合計	46,991	44,855	△ 2,135	39,921	40,468	+546	2,961	3,095	+133

(※)【報告セグメントの変更について】

・事業再編により、一部の事業のセグメントを、「その他」から「機械・設備システム」に変更。

('14年度の実績は、変更後のセグメントに合わせて組み替え)

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

詳しくは後ほど説明しますが、セグメント別の営業利益について簡単に説明します。

交通・輸送セグメントは、ボーイング向け民間航空機事業における生産効率化や円安効果により、大きく増加しました。一方、不具合対策関連費用を計上したエネルギー・環境のほか、防衛・宇宙、機械・設備システムの3セグメントは、前年度を若干下回りました。

2015年度決算実績 貸借対照表



	'13年度末	'14年度末	'15年度末	対前年度末 増減
売上債権	11,889	12,912	12,056	△855
たな卸資産	11,509	13,248	13,323	+75
その他流動資産	8,410	9,358	9,881	+522
固定資産	11,015	11,963	12,659	+696
投資等	6,035	7,720	6,996	△723
資産合計	48,860	55,203	54,917	△285
買入債務	8,014	8,692	8,606	△85
前受金	5,674	6,631	7,497	+865
その他	7,854	8,923	8,311	△611
有利子負債	9,574	9,755	10,521	+765
純資産	17,742	21,200	19,980	△1,219
(うち自己資本)	(15,433)	(17,807)	(16,797)	(△1,010)
負債・純資産合計	48,860	55,203	54,917	△285

その他の包括利益 △1,261
(為替換算調整勘定、
その他有価証券評価差額金 他)

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

貸借対照表について説明します。

資産は、2014年度末から285億円減少し、54,917億円となりました。大型M&Aの影響や事業規模の拡大と共にバランスシートが膨らむ傾向にありますが、引き続き全社を挙げてバランスシートのスリム化を進めていきます。

増減の主な要因は以下の通りです。

固定資産は、ユニキャリア(株)買収に伴うのれん計上などにより、前年度末から696億円増加の12,659億円となりました。

事業規模が拡大する中、たな卸資産が前年度末から75億円の増加に留まったのは、生産効率化進展の成果と考えています。

投資等は、前年度末から723億円減少の6,996億円となりました。これは主に、株式市場の下落に伴う有価証券評価損によるものです。

買入債務は前年度末より85億円減少の8,606億円、前受金は前年度末より865億円増加の7,497億円となりました。

有利子負債は、前年度末から765億円増加しました。これは主に、ユニキャリア(株)が保有する借入金の連結やニチュ三菱フォークリフト(株)の調達資金増加によるもので、それらを除いた有利子負債は、前年度より減少しています。

純資産は、前年度末から1,219億円減少の19,980億円となりました。これは主に、為替換算調整勘定や有価証券評価損等、包括利益のマイナスによるものです。

当社の、経営において注目している見方の一つに、買入債務・前受金の合計値とたな卸資産の関係があります。例えば、2013年度末の買入債務・前受金の合計値は13,688億円であり、たな卸資産の11,509億円を約2,000億円上回っていました。一方、2015年度末は、たな卸資産が約13,000億円だったのに対して、買入債務・前受金の合計値は約16,000億円となり、約3,000億円上回りました。つまり、生産資金は若干余裕があるという状況であり、これは、近年における当社のキャッシュフロー重視経営の成果と評価しております。

主要財務指標

	'13年度	'14年度	'15年度	対前年度 増減
自己資本比率	31.6%	32.3%	30.6%	△1.7pt
有利子負債残高 (単位:億円)	9,574	9,755	10,521	+765
D/Eレシオ	0.54	0.46	0.53	+0.07

キャッシュ・フロー

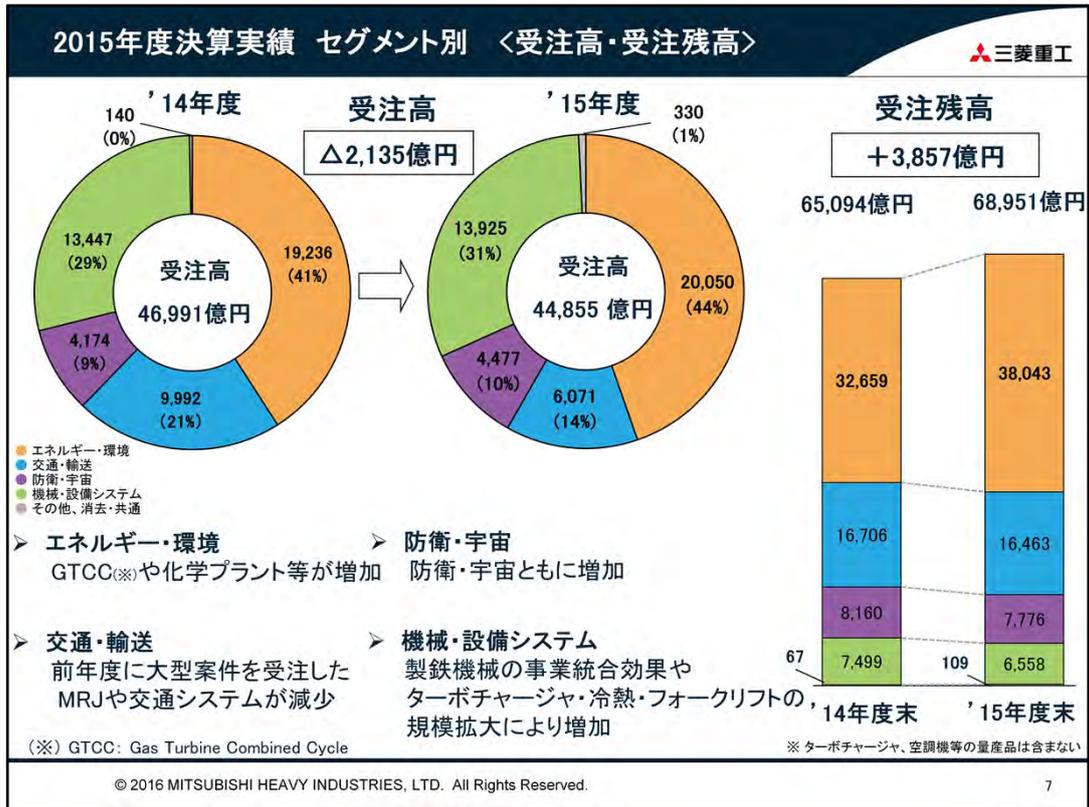
(単位:億円)

	'13年度	'14年度	'15年度
営業CF	2,962	2,128	2,700
投資CF	△ 1,515	△ 1,741	△ 2,624
フリーCF	1,446	386	75

主要財務指標およびキャッシュフローについて説明します。

前年度末から、自己資本比率は1.7ポイント減少、有利子負債は765億円増加、D/Eレシオは0.07増加しました。

約1,000億円をユニキャリア(株)買収に投じたことにより、投資キャッシュフローはマイナス2,624億円となりましたが、営業キャッシュフローを2,700億円稼いだ結果、フリーキャッシュフローは、直近の見通しであったマイナス500億円を上回ってプラスとなりました。

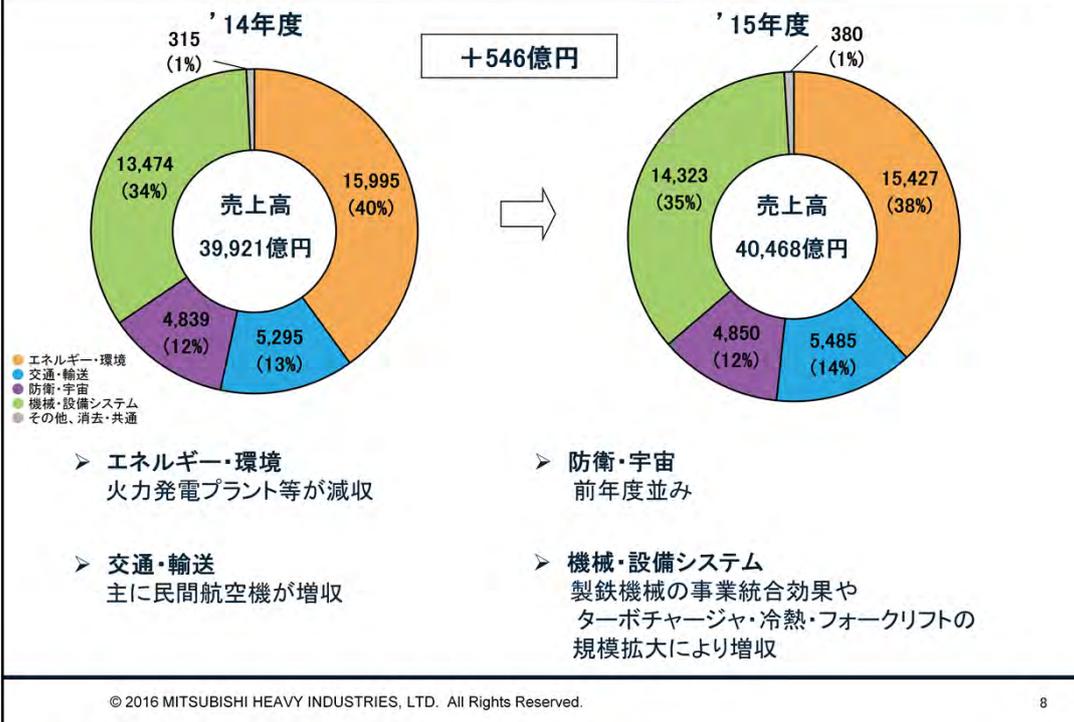


セグメント別状況について説明します。

受注高の各セグメントの構成比に、大きな変動はありません。

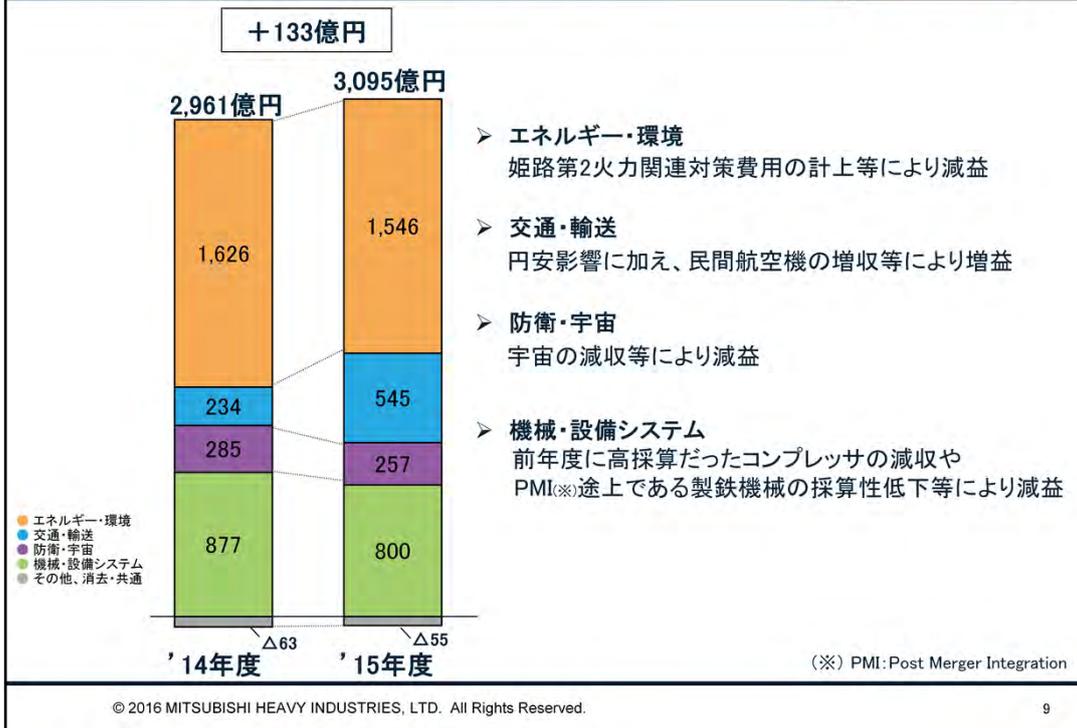
受注残高は、エネルギー・環境セグメントの増加により3,857億円増加の68,951億円となりました。この中に量産品のような当期受注当期売上計上工事は含まれていませんが、これは概ね2年間の工事量に相当します。当社の生産能力からすれば、この2年間分というのは適正な水準であると評価しています。

2015年度決算実績 セグメント別 <売上高>

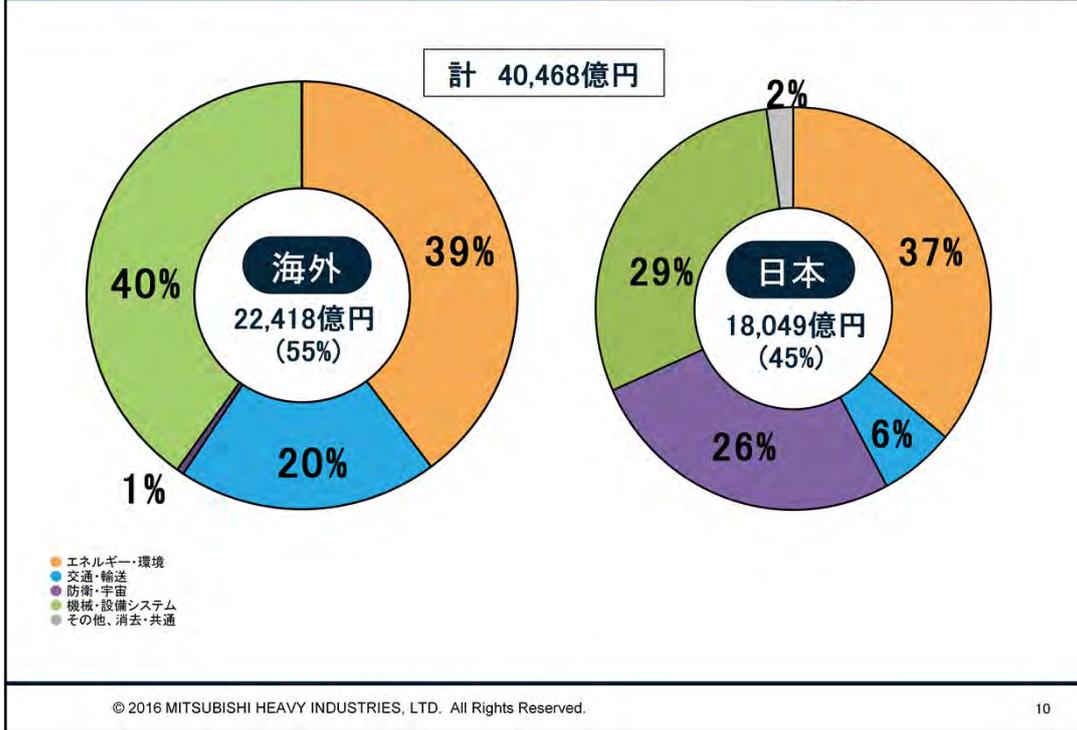


売上高は、ご覧のとおりです。

2015年度決算実績 セグメント別 <営業利益>

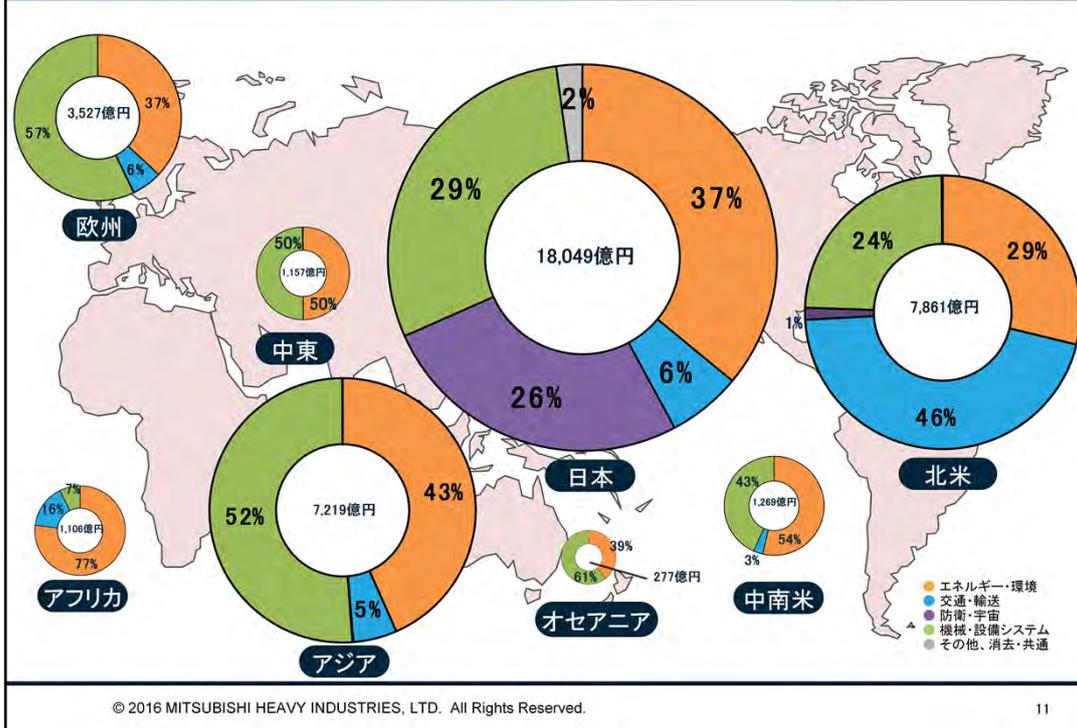
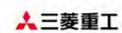


営業利益は、エネルギー・環境セグメントが減益となった一方、交通・輸送セグメントが増益となった結果、前年度を133億円上回る3,095億円となりました。



国内外のセグメント別売上高構成割合はご覧のとおりです。
 海外向け売上高割合が55%であり、日本向け売上高割合を上回っています。

2015年度決算実績 世界地域別売上高



各地域のセグメント別売上高構成割合はご覧のとおりです。

海外への依存度が高まっている状況において、世界経済の変動に対応できるよう、地域ごとの売上高のバランスが取れていることが重要と考えています。

ボーイング向け民間航空機事業により北米に占める交通・輸送の割合が高いなど、地域・製品によって差はありますが、徐々にバランスの取れた状況になってきていると評価しています。

I . 2015年度決算実績

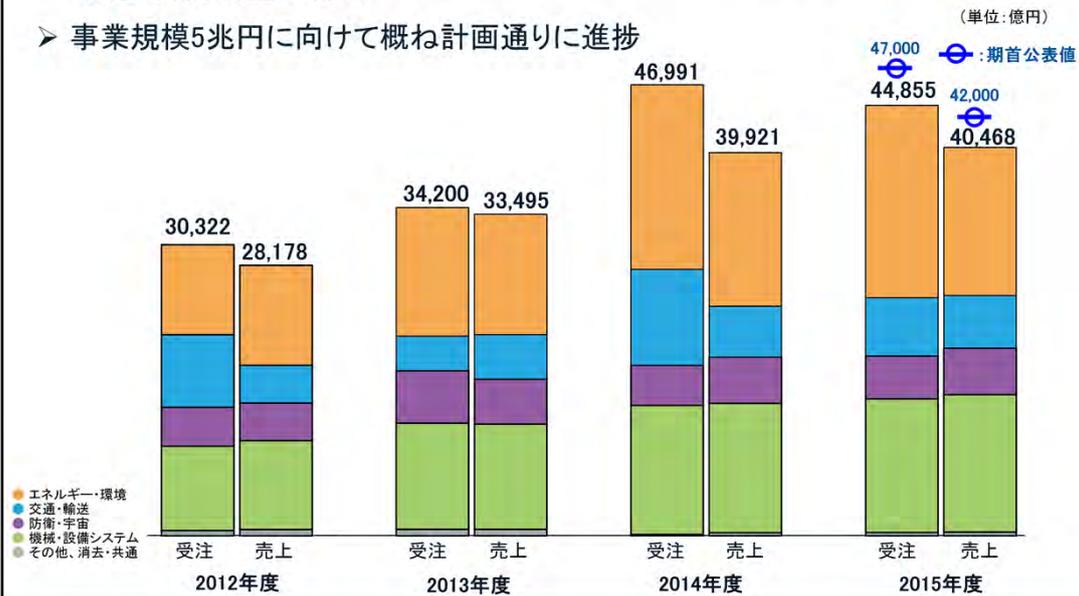
(経営分析編)

2015年度決算を踏まえ、当社の経営状況に対する評価について説明します。

事業規模の推移



- M&Aの積極的推進や既存事業の規模拡大等により、2012年度対比で受注48%、売上44%増
- 事業規模5兆円に向けて概ね計画通りに進捗

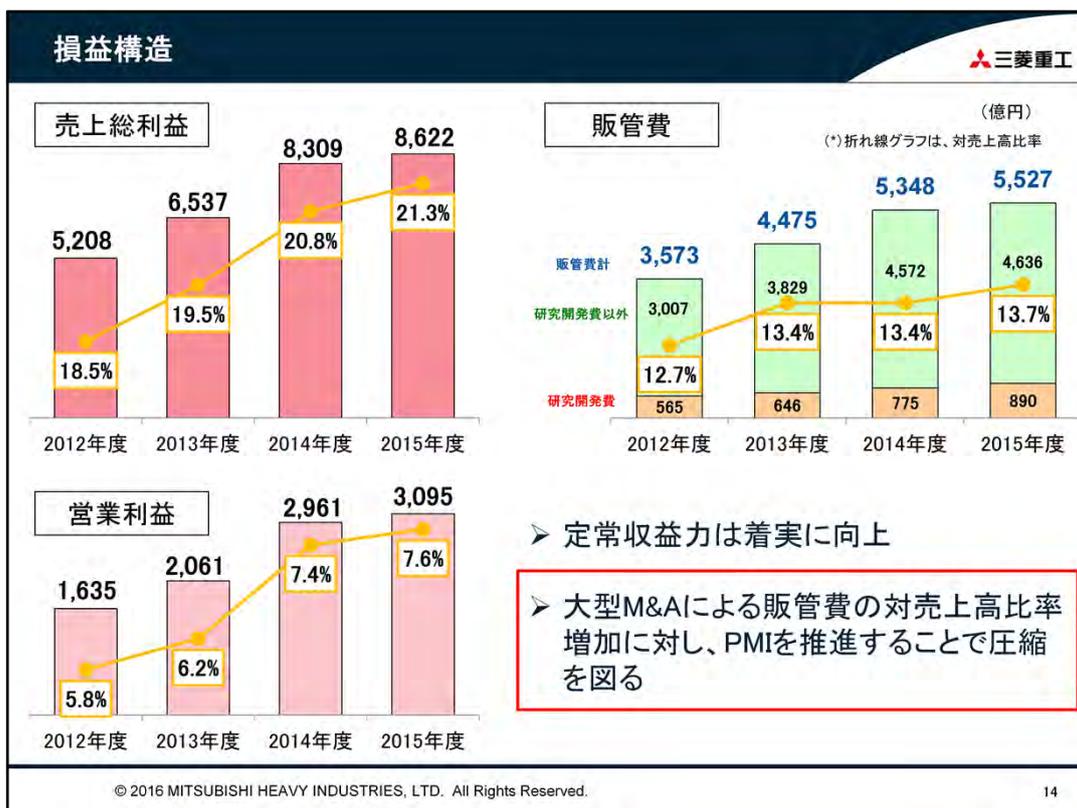


© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

当社は、中期経営計画である2015事業計画において、事業規模5兆円の高収益企業を目標に掲げています。

事業規模の面においては、大型案件の受注が翌年度にずれしたことなどにより2015年度の受注高が少し落ちましたが、5兆円に向けて堅調に推移しています。



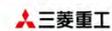
次に、損益構造について説明します。

稼ぐ力の源泉を表す売上総利益いわゆる粗利益は、2012年度から2015年度にかけて大きく成長しました。2015年度は過去最高の8,622億円となり、将来的には1兆円も視野に入る状況です。対売上高総利益率も急速に改善しています。

これに伴い、営業利益率も徐々に改善していますが、大型M&Aにより販管費も増加傾向にあります。

今後は、対売上高総利益率を維持すると同時に、M&A案件のPMI推進により販管費を圧縮することで、営業利益率のさらなる改善を図ります。

キャッシュ・フローの推移



2010～15年度フリー・キャッシュ・フロー推移



2010～2015年度累計FCF

新規事業除く FCF累計	11,976億円
新規事業への投資累計	△4,413億円
FCF累計	7,563億円獲得

今後の方向性

補強	補強
<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自経営 (PMI) の加速 ・ 運転資金削減 (CCC改善) ・ 更なるリソース投入事業の絞り込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセット・マネジメント

↑

↑

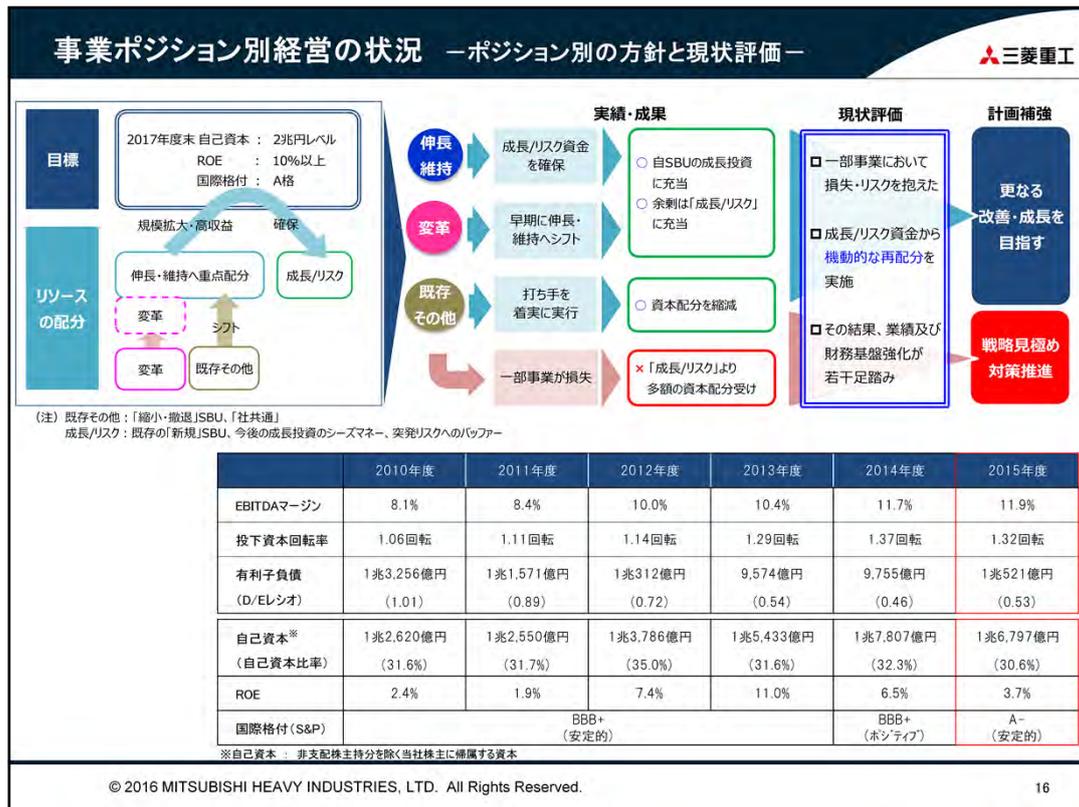
- ・ リスクマネジメント体制の強化 (CEO直轄体制の構築)
- ・ 技術基盤の強化 (CTOによるシェアドテクノロジー部門の強化)

収益性を測るもう一つの重要な指標である、キャッシュフローの状況について説明します。

2015年度は、営業キャッシュフローにおいて、客船建造における損失発生などマイナス影響があり、また、投資キャッシュフローにおいても、ユニキャリア(株)買収に約1,000億円を支出しました。これらにより、フリーキャッシュフローがマイナスとなる見込みでしたが、利益に基づくキャッシュフローを大きく伸ばしたことで、結果的にプラスになりました。

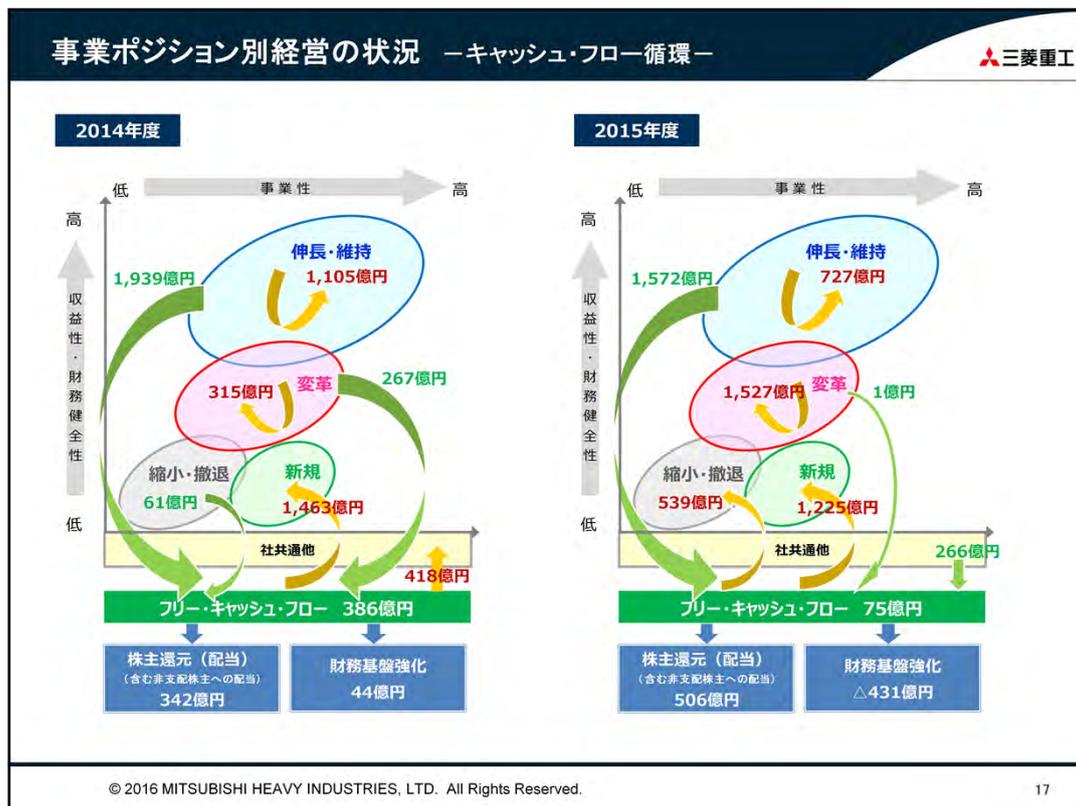
当社は、2010事業計画(2010年度～2012年度)以降、『戦略的事業評価制度』を導入してポートフォリオ経営を強化すると同時に、キャッシュフロー重視の経営にシフトしてまいりました。

キャッシュフローを増やす施策は、バランスシート改善(第1エンジン)とキャッシュの源泉となる利益増加(第2エンジン)の2種類に大別されます。キャッシュフロー重視の経営に舵を切った当初は、まずバランスシート改善に着手しました。今では、この第1エンジンが一定の効率性を維持しながら、さらに第2エンジンが原動力となって、キャッシュフローを生み出しています。当社の事業は、現在のキャッシュフローが約2年後の経営成績に繋がっていくサイクルであるため、ある程度の期間についての2年間の収益性は維持できていると考えています。



当社は、事業規模5兆円超の高収益企業に向けて、自己資本2兆円、ROE10%以上、国際格付A格以上を目標に掲げています。

15ページで説明したキャッシュフロー利益の大半を『伸長・維持』に位置づける事業で稼いでいるなど、『伸長・維持』事業群へのリソースの重点配分とリターンの獲得は順調に進んでいます。『変革』及び『既存・その他』についても、『変革』に位置する事業を早期に『伸長・維持』へ持ち上げると共に、『既存・その他』のリソースを『伸長・維持』や『成長・リスク』の事業群に配分していきます。

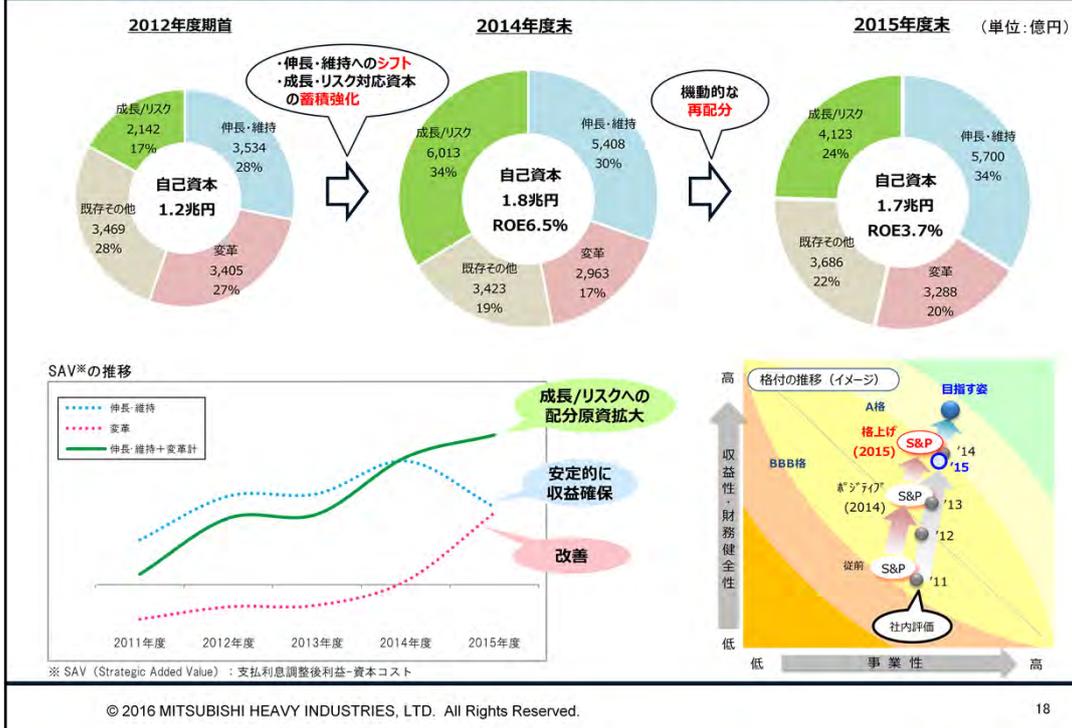
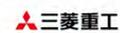


事業ポジション別のキャッシュフロー循環状況を説明します。

当社では、全ての事業を『伸長・維持』『変革』『新規』『縮小・撤退』の4つの事業ポジションに区分しています。

例えば『伸長・維持』は、2015年度に1,572億円のフリーキャッシュフローを生み出したほか、自らの稼いだキャッシュフローのうち727億円を自己投資に費やしましたが、この自己投資の規模は、2014年度の1,105億円から減少しました。つまり『伸長・維持』は、事業規模を拡大させながら投下資金を節約できています。このような点に、資金効率化の成果が表れていると考えています。

事業ポジション別経営の状況 —ポジション別資本配分の状況—



© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

18

ポジション別資本配分の状況について説明します。

『伸長・維持』『変革』のSAV (Strategic Added Value) つまり経済的付加価値は、左下の図に示す通り、『変革』の大幅な改善により、合計のSAVも右肩上がりで伸びています。

上の円グラフは、ポジション別資本配分の状況を示しています。MRJを中心とした新規事業への投資を続けながら、2015年度では3.7%に留まっているROEを、2016年度は7.5%まで持ち上げたいと考えています。

右下の図は、格付の推移を示しています。当社の格付は、社内評価・外部評価のいずれも年々向上しております。2015年には格付機関のStandard & Poor's社より、A-格という評価をいただきました。これは、近年の当社の経営が評価されたものと考えています。将来的には、AA格の取得を目指します。

基本方針

「将来事業への投資」と「自己資本強化」とのバランスを常に考慮しながら、
当社は連結配当性向30%を目処に株主還元を行う。

2015事計においては、グローバル市場における将来のビジネスチャンス／リスクに
対応し得る適正な自己資本レベルを2兆円と計画。

⇒ROE10%以上を達成しつつ自己資本を2兆円まで積み上げ、強靱な財務基盤を構築。

従い、2015事計期間中は以下の3点の状況を見極めながら配当水準を決定する。

- ・自己資本2兆円に向けた積み上がり状況
- ・将来の事業機会およびリスクボリューム
- ・ROEの改善状況

(最近3年間の配当実績)

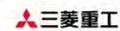
	配当 (1株あたり)		純利益 (億円)	連結 配当性向
2013年度	8円	(中間4円/期末4円)	1,604	16.7%
2014年度	11円	(中間5円/期末6円)	1,104	33.4%
2015年度	12円	(中間6円/期末6円)	638	63.1%

2015年度の配当は、12円を予定しています。純利益の縮小により、配当性向は63.1%となりました。

Ⅱ. 2016年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみにより投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2016年度業績見通し サマリー



(単位:億円)

	'15年度実績 (利益率)	'16年度見通し (利益率)	対前年度増減 (増減率)	
受注高	44,855	50,000	+5,144	(+11.5%)
売上高	40,468	44,000	+3,531	(+8.7%)
営業利益	(7.6%) 3,095	(8.0%) 3,500	+404	(+13.1%)
経常利益	(6.7%) 2,725	(7.5%) 3,300	+574	(+21.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.6%) 638	(3.0%) 1,300	+661	(+103.7%)
ROE	3.7%	7.5%	+3.8pt	—
EBITDA	(11.9%) 4,796	(12.3%) 5,400	+603	(+12.6%)
フリーCF	75	1,300	+1,224	—
配当(1株あたり)	12円 (中間6円/期末6円)	12円 (中間6円/期末6円)		

【未確定外貨】 27億ドル
4億ユーロ

【前提為替レート】 1ドル = 110円
1ユーロ = 125円

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

21

2016年度の業績見通しについて説明します。

受注高は、2015年度からの期ずれが約2,000億円あることも含め、50,000億円の計画としました。売上高は44,000億円、営業利益は3,500億円、営業利益率は8.0%、純利益は1,300億円を計画しています。

現状のキャッシュフローやバランスシートの状況、受注残工事の質などから、達成可能な業績見通しと考えています。

ROEは7.5%、EBITDAは5,400億円、フリーキャッシュフローは1,300億円、配当は12円を予定しています。

なお、決算短信16ページに、日立製作所(株)と当社の合弁会社である三菱日立パワーシステムズ(株)が南アフリカ共和国にて遂行中の火力発電所向けボイラ建設プロジェクトに関する注記を記載しています。

2016年度業績見通し セグメント別内訳



(単位:億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'15年度 実績	'16年度 見通し	対前年度 増減	'15年度 実績	'16年度 見通し	対前年度 増減	'15年度 実績	'16年度 見通し	対前年度 増減
エネルギー・環境	20,050	21,000	+949	15,427	17,000	+1,572	1,546	1,900	+353
交通・輸送	6,071	7,000	+928	5,485	5,500	+14	545	300	△ 245
防衛・宇宙	4,477	4,000	△ 477	4,850	4,000	△ 850	257	260	+2
機械・設備システム	13,925	17,000	+3,074	14,323	17,000	+2,676	800	1,100	+299
その他	1,628	2,000	+371	1,773	1,600	△ 173	126	140	+13
消去または共通	△ 1,298	△ 1,000	+298	△ 1,392	△ 1,100	+292	△ 181	△ 200	△ 18
合計	44,855	50,000	+5,144	40,468	44,000	+3,531	3,095	3,500	+404

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

22

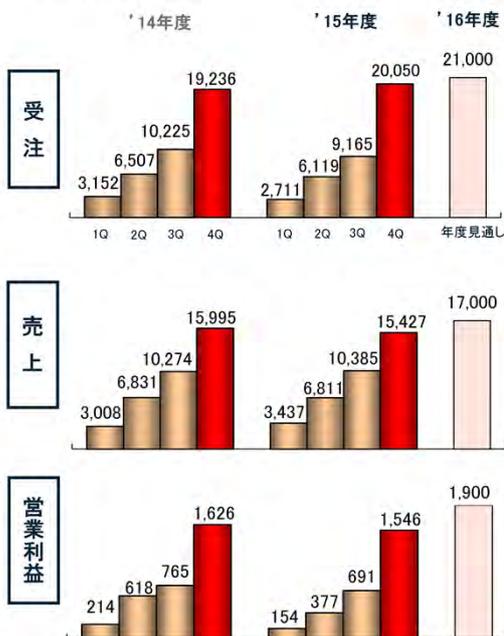
以上で、2015年度決算の説明を終わります。

Ⅲ. 補足資料

補足資料① 2015年度決算実績 <エネルギー・環境>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年度+814億円の増加

GTCCや大型案件を受注した化学プラント等の増加により、前年度を上回った。

【ガスタービン受注台数】

'14年度：45台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	7	4	2	-	13
中小型	-	5	7	20	32
合計	7	9	9	20	45

'15年度：32台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	2	6	4	5	17
中小型	-	1	1	13	15
合計	2	7	5	18	32

【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
'14年度末	34	33	67
'15年度末	42	35	77

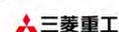
売上：対前年度△567億円の減収

化学プラント等が増収となった一方、火力発電プラント等の減収により、前年度を下回った。

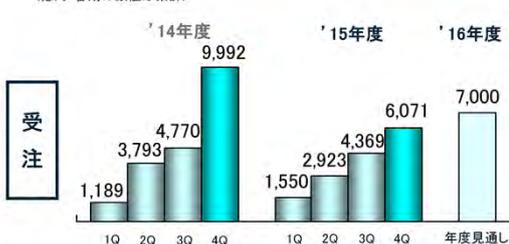
損益：対前年度△80億円の減益

姫路第2火力関連対策費用の計上等により、前年度を下回った。

補足資料① 2015年度決算実績 <交通・輸送>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年度△3,921億円の減少

前年度に大型案件を受注したMRJや交通システムが減少したことにより、前年度を下回った。

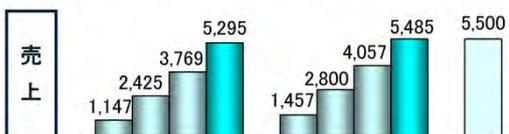
【商船 受注隻数】

'14年度：11隻 (1Q:3隻、2Q:3隻、3Q:1隻、4Q:4隻)

'15年度：16隻 (1Q:4隻、2Q:2隻、3Q:5隻、4Q:5隻)

【商船 契約残隻数】34隻

(LNG船 11隻、LPG船 9隻、巡視船 5隻 他)



売上：対前年度+189億円の増収

民間航空機を中心に増加し、前年度を上回った。

【B777 引渡機数】

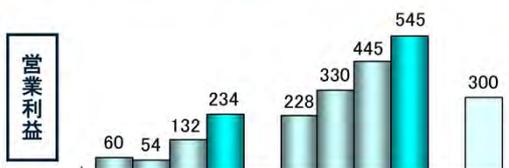
'14年度：98機 (1Q:26機、2Q:24機、3Q:26機、4Q:22機)

'15年度：107機 (1Q:28機、2Q:27機、3Q:25機、4Q:27機)

【B787 引渡機数】

'14年度：122機 (1Q:32機、2Q:28機、3Q:30機、4Q:32機)

'15年度：126機 (1Q:32機、2Q:31機、3Q:29機、4Q:34機)



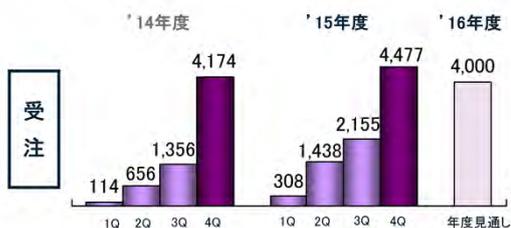
損益：対前年度+310億円の増益

円安の影響に加え、民間航空機の増収等により前年度を上回った。

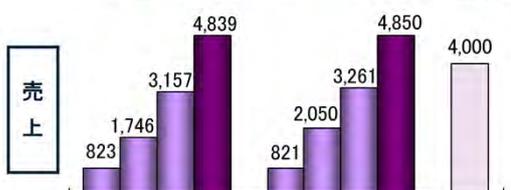
補足資料① 2015年度決算実績 <防衛・宇宙>



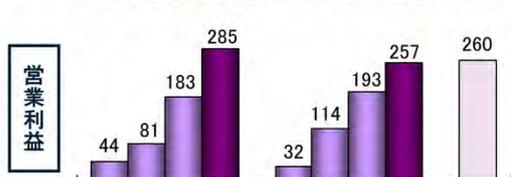
(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年度+303億円の増加
防衛・宇宙ともに増加し、前年度を上回った。

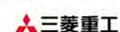


売上 : 対前年度+11億円の増収
前年度並みとなった。



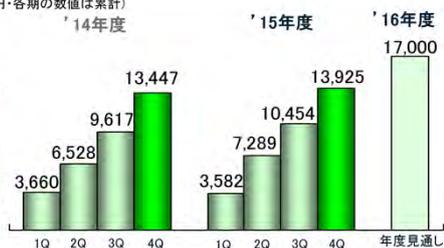
損益 : 対前年度△27億円の減益
宇宙の減収等に伴い、前年度を下回った。

補足資料① 2015年度決算実績 <機械・設備システム>



(億円・各期の数値は累計)
'14年度

受注



受注 : 対前年度+477億円の増加
売上 : 対前年度+848億円の増収
 製鉄機械事業統合効果や、ターボチャージャ・冷熱・フォークリフトの規模拡大により前年度を上回った。

売上



損益 : 対前年度△76億円の減益
 前年度に高採算だったコンプレッサの減収やPMIの途上である製鉄機械の採算性が低下したこともあり前年度を下回った。

営業利益



(※)【報告セグメントの変更について】
 ・事業再編により、一部の事業のセグメントを、「その他」から「機械・設備システム」に変更。
 (表中に記載の実績は、変更後のセグメントに合わせて組み替え)

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度	'16年度 見通し
研究開発費	1,214	1,200	1,385	1,455	1,506	1,500
減価償却費	1,262	1,194	1,349	1,570	1,587	1,700
設備投資	1,207	1,188	1,486	1,561	1,755	2,000

(単位:億円)

2. キャッシュ・フロー

	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
営業CF	2,003	2,883	2,962	2,128	2,700
投資CF	△ 470	△ 767	△ 1,515	△ 1,741	△ 2,624
フリーCF	1,533	2,116	1,446	386	75
財務CF	△ 1,836	△ 1,542	△ 1,366	△ 458	△ 231

(単位:億円)

3. 有利子負債、D/Eレシオ

	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
有利子負債残高 (単位:億円)	11,571	10,312	9,574	9,755	10,521
D/Eレシオ	0.89	0.72	0.54	0.46	0.53

4. 為替レート

	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
売上計上平均レート	81.0	83.6	100.1	109.4	119.7
(参考)期末日レート	82.2	94.1	102.9	120.2	112.7

(円/US \$)

5. 人員

				(単位:人)				
		'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度		
(連結)	船舶・海洋	3,966	3,708	(連結)	エネルギー・環境	28,393	26,855	25,887
	原動機	18,754	18,966		交通・輸送	8,182	7,129	7,428
	機械・鉄構	8,914	8,814		防衛・宇宙	6,477	6,022	6,281
	航空・宇宙	9,364	9,513		機械・設備システム	26,769	33,277	36,244
	汎用機・特殊車両	8,709	8,630		その他	10,762	8,562	8,092
	その他	18,914	18,582		合計	80,583	81,845	83,932
	合計	68,621	68,213					
(単独)		(32,494)	(31,111)	(単独)		(22,147)	(21,117)	(19,357)

6. 海外地域別売上高

		(単位:億円)				
		'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
北米	2,960 (10.5%)	3,790 (13.5%)	5,228 (15.6%)	6,803 (17.0%)	7,861 (19.4%)	
中南米	1,421 (5.0%)	1,051 (3.7%)	1,040 (3.1%)	1,190 (3.0%)	1,269 (3.1%)	
アジア	3,818 (13.5%)	4,576 (16.2%)	5,929 (17.7%)	6,825 (17.1%)	7,219 (17.8%)	
中東	687 (2.4%)	475 (1.7%)	786 (2.4%)	1,271 (3.2%)	1,157 (2.9%)	
欧州	2,257 (8.0%)	2,175 (7.7%)	2,638 (7.9%)	3,540 (8.9%)	3,527 (8.7%)	
アフリカ	516 (1.8%)	234 (0.8%)	673 (2.0%)	1,298 (3.3%)	1,106 (2.7%)	
オセアニア	148 (0.5%)	315 (1.1%)	215 (0.6%)	370 (0.9%)	277 (0.7%)	
合計	11,810 (41.9%)	12,619 (44.8%)	16,512 (49.3%)	21,299 (53.4%)	22,418 (55.4%)	

※ ()内は構成比

7. 所在地別セグメント情報

(単位: 億円)

		'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
日本	売上高	26,217	25,656	28,739	31,412	30,573
	営業利益	1,052	1,367	1,895	2,632	2,486
北米	売上高	1,686	2,057	3,523	4,564	5,291
	営業利益	7	132	19	42	219
アジア	売上高	1,484	1,496	2,444	3,741	3,830
	営業利益	56	89	148	267	327
欧州	売上高	1,309	1,285	1,621	3,275	3,645
	営業利益	△ 15	47	△ 7	13	36
その他	売上高	200	171	289	899	1,001
	営業利益	18	△ 1	4	5	24
消去または共通	売上高	△ 2,688	△ 2,488	△ 3,122	△ 3,972	△ 3,873
	営業利益	-	-	-	-	-
合計	売上高	28,209	28,178	33,495	39,921	40,468
	営業利益	1,119	1,635	2,061	2,961	3,095



この星に、たしかな未来を

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.